

大阪市城東区 6 中学校 16 小学校に分担して要請を行ないました。ほとんどは先に電話をして、教頭先生にアポイントを取って話しを聞いてもらうようにしようとしたが、後半はアポなしで訪問をして話しができた学校もありました。「先生が足りない」状況の中で、アポとることだけでも大変な実態でした。話している最中にも何度も電話が入ってくる、急に会議が入って短時間しか話せない、そんな忙しい中での要請でした。「行くと決めている」と応対拒否の 1 校含めて、すべての学校に要請文書は届けました。

1 つの中学校は「うちは遠足の予定はないです」とキツパリ言っておられました。「行く。申し込む。」とはっきり言われたところは 4 校。他は「まだ決めていない。」やどうするか答えてくれない、などでした。

生徒下校中、校門で生徒の見送りしながら「夢洲での爆発事故は知っている。安全でないと思うか教育委員会からの通達で拒むことはできない。．．．．．保護者会から多数の反対意見あれば参加はしない。」と話してくれた校長先生もいました。

時間がないから会えないと電話口に出た校長先生から「学校としては暑さ対策が一番の心配で、遠足は 5 月中旬まで、と決めた。爆発のこととかも聞いたので、子どもたちの安全第一で遠足のことは考えたい。」

「まだ決めてはいないが、市教委の指示だから、「行かない」とは決めにくい、こんな現状ではほんまに行けるのか疑問だ。行くも行かないも、決めようがない、というのが本音の所です。」「今は全国学力テストの数を数えるのに教員も大変。ふだんの学校生活が大事です。イベントよりも。教員の人数も増やしてほしいのは切実です。」

圧力を受けながらも、子どもたちの安全を第 1 にとの思いは共通で、本音も出してくれるところもあって、今後も学校、保護者への働きかけが大事だと実感しました。